

乾シイタケ2年目発生量の増大

きのこグループでは、原木乾シイタケ栽培技術の改善・開発に取り組む中で、地球温暖化がシイタケの発生への影響が懸念されるため、その対応についても取り組んでいます。そのような中、2年目の発生量が以前よりも少なくなってきた傾向があり、現地で問題となっています。そこで、2年目のほだ木からの発生量を増大させる発生操作技術について取り組みました。

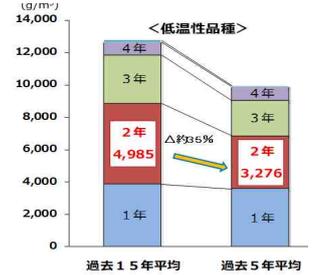


図-1 ほだ木年数毎の発生量（過去15年平均と過去5年平均:2000～2014年）

研究の内容

ほだ木への刺激として、散水及び樹脂製ハンマーによる打木を組み合わせることで、発生量の増大につながらないか検証しました。その成果として打木による発生操作について紹介します。

成果のポイント

(1) 2年目のほだ木に対して、散水後に打木操作を行うと、発生量が増加しました（図-2）。



発生状況<低温性品種>（左：打木なし区 右：打木区）

(2) 打木操作は木口よりも樹皮に行う方が効果が大きいことがわかりました。（図-3）

◎普及情報誌への掲載や研修会などにより普及定着を図っています。

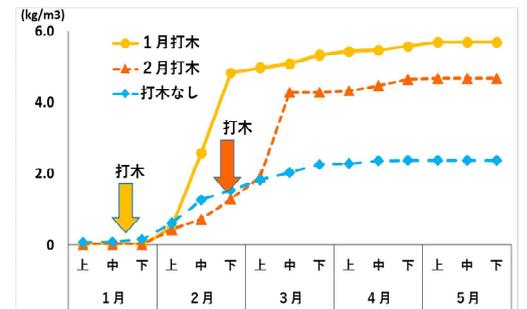


図-2 打木時期毎の発生状況<低温性品種>

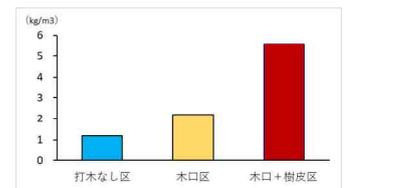


図-3 打木箇所毎の発生量<低温性品種>



【生産者の声】

きのこグループで開催された研修会で教わった打木を行ってみました。発生が見られないほだ木を打木することにより、多くの発生が見られ、その効果に驚きました。2年目ほだ木の安定発生・分散発生の方法として、非常に有効だと思いました。

【連絡先】

担当：林業研究部 きのこグループ きのこチーム  
TEL :0974-22-4236  
住所：豊後大野市三重町赤嶺2369